

2026年3月18日

## 公益社団法人日本技術士会 埼玉県支部 CPD 委員会 活動報告

1. 活動テーマ 埼玉県支部 CPD 行事「令和 8(2026)年度技術士資格取得説明会」
2. 実施日時 2026年3月14日(土)13:30- 16:15(13:00 受付開始)
3. 実施場所 新都心ビジネス交流プラザ D 会議室
4. 参加者、人数 12名(受講者7、講師3、運営担当者2)  
受講者内訳:技術士補(会員)2、技術士補(非会員)・修習技術者3、一般2
5. 実施事項 司会:CPD 委員 白岩信裕(技術士(化学、総合技術監理))

(1)13:30~13:35 開会挨拶 埼玉県支部支部長 石田正雄(技術士(金属))

(2)13:35~14:25 講演「Go to Professional Engineer! ~技術士制度及び技術士試験の概要~」  
埼玉県支部 菅原 宏(技術士(情報工学、総合技術監理))

技術士資格成立の経緯と技術士法や技術士制度の説明の後、技術者のキャリアアップ(IPD)の説明と技術士の保有すべき八つのコンピテンシーが紹介された。また若手技術者の技術士資格取得理由や取得後感じたメリットの調査結果が紹介された。続いて資格取得までの行程が示され、最初に取り組む一次試験の受験の概要説明がなされた。一次試験合格後は修習技術者・技術士補として実務経験を積み、所定期間経過後に二次試験の受験資格が得られるが、受験申込では業務経歴の証明が必要であること、筆記試験では実務経験中のコンピテンシー保有が問われ、口頭試験では実務能力が問われると説明された。二次試験合格後は技術士登録を行い、技術者としてキャリアを更に積むよう話された。

(3)14:30~15:10 講演「令和 8 年度技術士資格取得説明会~諸注意事項について~」  
村山技術士事務所 村山 肇氏(技術士(金属))

令和 8(2026)年度の試験日程、一次試験・二次試験の概要、試験合格率の推移が説明された。一次試験では択一式問題に対する過去問の学習の必要性が説明され、二次試験では、筆記試験への取り組みで全技術部門に共通する「回答内容の指示」に着目し、社会情勢を示すキーワードを理解しておくことが必要と話された。また、考えを纏め回答用紙に指定文字数内で記述する訓練するとよいと話され、口頭試験は筆記試験合格者に対し実施されるので、筆記試験での記述内容を纏めておくことや業務経歴の整理が必要である。実務経験証明書は業務経歴と指導者の組み合わせで異なると説明され、記入の要点が説明された。また、技術士資格獲得のためには、家族の理解、協力を得、「絶対合格する」という強い意志を持ち、仲間と共同で勉強し、切磋琢磨されるのがよいと話された。

-休憩 15 分間-

(4)15:25~16:05 講演「技術士資格取得にあたって『受験体験談』」  
総合印刷会社 齋藤剛史氏(技術士(生物工学))

実家や同級生や見慣れた地元(仙台)の東日本大震災の被災を見て、その後、自身の社会貢献を図るべく企業内の諸現場の経験を活かして各種資格を取得した。そのような状況のもと新規事業に携わる中で、科学技術に係る技術士資格の存在に着目し、その取得を目指し、一次試験受験から初めて 4 年目に技術士資格を取得した。部門は業務に係る生物工学であり、期限を設け取得に取り組み、一次試験受験では色々な教材(公務員試験テキストや問題集、YouTube)で幅広く学習した知識が活用できた。技術者倫理は常に覚えるよう努め、机の上に飾り、眺めることでモチベーション維持につなげた。技術士会の過去問は何度も復習している。二次試験では、業務経歴のまとめと経歴証明書の書き出しのため、業務の棚卸を行っている。生物機能工学の専門知識、応用能力、問題解決能力を示す論文(筆記)の学習では、バイオ関連資格のテキストや問題集を活用した。資格取得後は、技術士会での活動(埼玉県支部での活動等)や社会との繋がりが本当に幅広く、充実した日々繋がると共に、今後は社会貢献へ活かしたいと抱負が述べられた。

(5)16:05~16:10 質疑応答

受験する際の一次試験の技術士部門の選択に関し参加者から質問があり、講師から自分の経歴を整理し、無理のない部門を選択するのがよいとの回答がなされた。

(6)16:10~16:15 閉会挨拶 CPD 委員長 菅原 宏(技術士(応用理学、総合技術監理))

以上

(実施記録報告:白岩信裕)